

## ①水産分野とは

- ・ 漁業が地域の基幹産業
- ・ 漁港があり、水産物やそれらを加工した水産加工品のための施設が立地
- ・ 海洋資源が豊富

## ②水産分野の課題

## ● 水産業

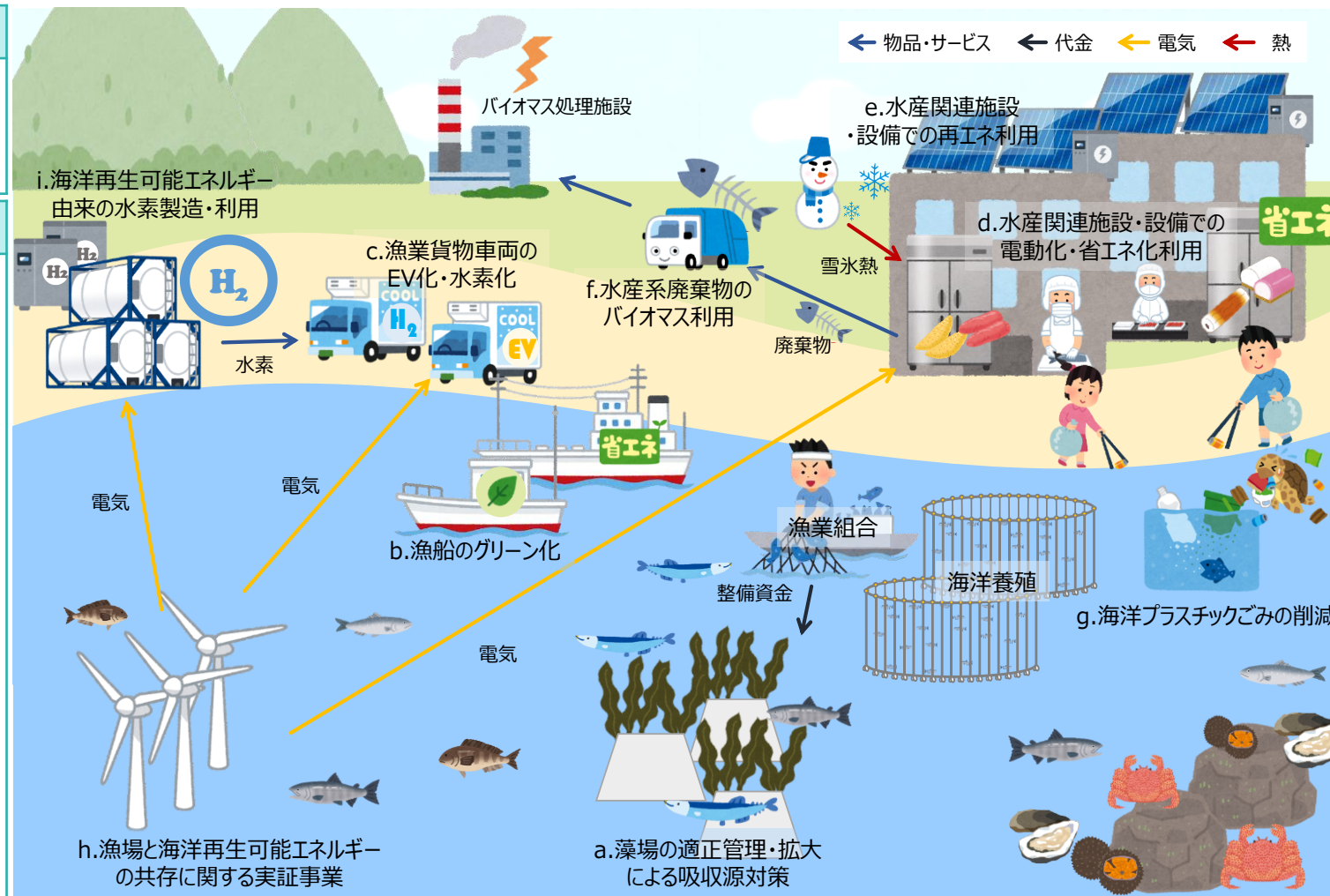
- ・ 温暖化等による漁獲量減少・魚種変化
- ・ 原油価格高騰時の漁船の稼働コスト高
- ・ 藻場の磯焼け
- ・ 水産廃棄物の処理
- ・ 漁業従事者の後継者不足
- ・ 漁業従事者の減少・高齢化
- ・ 国内消費の減少と海外需要の高まりへの対応

## ● エネルギー・GHG排出量

- ・ 藻場の吸収源としての機能への理解不足
- ・ 漁船や貨物車両によるCO<sub>2</sub>排出
- ・ 水産加工場でのエネルギー消費
- ・ 海洋再生可能エネルギー導入への懸念

## ● まちづくり・地域経済

- ・ 住環境・生活環境の維持
- ・ 若年層の定住
- ・ 海洋プラスチックごみへの対応



## ④取組によって想定される効果

## ● 水産業

- ・ 温暖化防止等による漁業への影響の低減
- ・ 藻場の管理・拡大による漁場環境の保全
- ・ 水産系廃棄物の有効利用

## ● エネルギー・GHG排出量

- ・ 漁船の省エネ化によるCO<sub>2</sub>排出量の削減
- ・ 漁業貨物車両のCO<sub>2</sub>排出量の削減
- ・ 水産加工場の設備稼働時のエネルギーの脱炭素化
- ・ 藻場の管理によるCO<sub>2</sub>吸収
- ・ 再生可能エネルギーの活用
- ・ 再生可能エネルギー由来の水素による地域レジリエンスの強化
- ・ エネルギー代金の流出抑制・地域経済循環

## ● まちづくり・地域経済

- ・ ブルーカーボンや水素による新規事業の創出
- ・ 新規事業創出による定住人口の増加
- ・ 海洋プラスチックごみの削減

## ⑤導入が想定される再生可能エネルギーの種別

- ・ 海洋に設置する再生可能エネルギー
- ・ 地中熱や雪氷熱などの未利用熱エネルギー
- ・ 余剰電力で製造した水素エネルギー

## ③脱炭素化の取組例

## 漁業関連での取組例

## a.藻場の適正管理・拡大による吸収源対策

漁場の形成を目的とする藻場の適正管理・拡大事業は、ブルーカーボンと呼ばれるCO<sub>2</sub>吸収源対策にもつながる。藻場の管理・拡大を行いCO<sub>2</sub>吸収量を測定し、クレジットとして取引することで、収入も得られる。

## b.漁船のグリーン化

漁船の省エネルギー化と燃料のグリーン化を推進する。CO<sub>2</sub>排出量の削減だけでなく、原油価格高騰時の漁船燃料コストへの影響を少なくし、漁業経営の安定化を図る。

## c.漁業貨物車両のEV化、水素化

漁業で使う貨物車両をEV化やFCV化し、漁業の運搬過程での脱炭素化を図る。

## 水産加工業関連での取組例

## d.水産関連施設・設備の電動化・省エネ化

水産加工場等の水産関連施設にある設備の電動化や、冷蔵・冷凍庫等の省エネ化を促進を図る。設備更新の際には、地中熱や雪氷熱等の未利用熱の利用を検討する。

## e.水産関連施設・設備での再エネ利用

水産加工場等の水産関連施設で消費される電力の再生可能エネルギーへの転換や、蓄電池の活用によって電力のピークシフトの実現を図る。

## f.水産系廃棄物のバイオマス利用

水産加工場等から発生する水産系廃棄物のバイオマスとしての活用を検討する。周辺にバイオマス処理施設があれば搬入を検討する。

## 海洋環境保全での取組例

## g.海洋プラスチックごみの削減

海洋プラスチックごみによる生態系や漁業への影響を防ぐために、海洋ごみに関する地域計画の策定や、ごみの適正な回収・処理に取り組む。

## 再エネ電源の開発・水素製造・利用の取組例

## h.漁場と海洋再生可能エネルギーの共存に関する実証事業

地域での漁場に好影響をもたらす洋上風力発電等の適切な導入方法に関する調査・実証を行う。

## i.海洋再生可能エネルギー由来の水素製造・利用

h.の漁業と共存できる設置検討を踏まえて、導入された海洋再生可能エネルギー発電所の余剰電力を活用して、水素を製造し、防災拠点での備蓄や電力需要の多い地域への供給を行う。